

# 人権だより

令和5年度 学年末号

令和6年3月19日発行

## 【 砥部分校 人権だよりについて 】

令和5年度、第3弾「人権だより」を発行しました。

これは、砥部分校、人権委員会による活動です。

今回は1年生人権委員が担当です。今回のトピックは以下の通りです。ぜひ読んでください。

- 1年生進級制作「詩画—坂村真民の詩にのせて—」作品紹介
- 3学期 1・2年生 人権・同和教育ホームルーム活動

## 【 1年生進級制作「詩画—坂村真民の詩にのせて—」 】

砥部分校では、1年生の遠足時に町内にある「坂村真民記念館」を訪問します。

今年度、人権委員は地元縁のある、坂村真民さんが作られた多くの詩を様々な方法で鑑賞し、感じたことを私たちの表現方法で発表することを活動の一つとしてきました。

夏には人権委員と希望者が記念館を再訪問し、詩に込められた生きる希望や困難に立ち向かう強さ、命の大切さや他人をいたわる優しさなどを学び、詩に対する思いを深めました。

1年生は国語やホームルーム活動を通して、自分の人生の道しるべとなる詩に出会うことができました。この体験を基に、自分の一度きりの人生を大切に、ひたむきに生きていくためには何が必要かを考えながら制作した作品は、1月末に愛媛県美術館で開催した卒業制作展に展示しました。

坂村真民記念館に行き、真民さんの詩をたくさん鑑賞しました。真民さんの詩にはたんぽぽの落款印が押されていました。そのことを館長さんに尋ねると、真民さんは自分の家のことを「たんぽぽ堂」と呼ぶほどたんぽぽが好きだったと教えて下さいました。

たんぽぽが踏まれても太陽の方に向かって力強く咲く姿を自分自身と重ねている真民さんの生き方を伺うことができました。

そして、私は真民さんの「希望」という詩を詩画のテーマにしました。「希望」という詩の良さがたくさんの人に伝わることを意識して描きました。「希望の光」をキャンバスの真ん中に描き、最初に目が行くようにしたり、背景を黒色にして光っている感じが目立つようにしたりしました。手の描写や光っている感じを表現するのにとても苦戦しましたが、楽しんで制作できました。



フィールドワークで、直筆の真民さんの詩を読んで、詩に込められた思いなどを調べました。

その中から詩を一つ選び、進級制作となる詩画を制作しました。私が選んだ詩は「よい本を読め」という詩です。この詩には「よい本をたくさん読んで、よりよい自分を作り上げる」という意味がありました。「本を読む」という身近な行動の積み重ねで「よい自分」を作ることができると考え、前向きに明るい未来を見ている少女をイメージして描きました。この詩画を見た人に、前向きな気持ちや毎日の積み重ねの大切さが伝わりとうれしいです。



## 【 1・2年生 3学期の人権・同和教育ホームルーム活動 】

令和6年2月9日（金曜日 6時間目）

### 1年【 自分の周りに目を向けようⅡ—自分の周りの人権問題Ⅱ— 】

私たち1年生は、『ボッチャを通して、さまざまな「ニュースポーツ」を知ろう』をテーマに、人権・同和教育ホームルーム活動を行いました。

まず、体育の授業でボッチャ競技を体験しました。次に、班別活動として、ボッチャの魅力を話し合ったり、他の「ニュースポーツ」について調べたりしました。

ボッチャの魅力について、多くの班から「障がいやスポーツが得意、不得意の関係なく、誰でもできる競技であること」という意見が出ました。

今回私たちが調べた「ニュースポーツ」の「風船バレー」や「ブラインドサッカー」なども同じ魅力を持っています。

この活動を通して、「他のニュースポーツもしてみたい。」や「たくさんの魅力を感じることができた」という感想があがりました。

担任の先生は「デザインをする上で色んな人の目線に立つことも大事」と仰いました。今日のホームルーム活動をこれからの制作に生かしていこうと思いました。

11R 人権委員

1年生の様子 ↓



2年生の様子 ↓



### 2年【 平等な社会を目指して —学ぶことの意味を考えよう— 】

私たちは「平等な社会を目指して—学ぶことの意味を考えよう—」というテーマで今年度最後の人権・同和教育ホームルーム活動を行いました。

事前に、識字学級に通い、愛媛出身の絵本作家長野ヒデ子さんの絵本「ひらがな日記」のモデルになった吉田一子さんのドキュメンタリーを見て、内容を記録したり、感想を書いたりしました。

当日のホームルーム活動は、今年の学びの振り返りを担任の先生にいただき、全国水平社創立宣言以降の流れを学ぶことから始まりました。その中で、識字学級が生まれた流れを知り、1948年に行われた世界的な識字調査では日本国内でまったく読み書きができない人が1.7%であったと知りました。その数字を少ないと思うのか、多いと思うのかを考えながら、前日の記録をもとに班でドキュメンタリーの感想や今年度の学びを通して感じたことを話し合いました。

その後、四国沖で起こった紫雲丸の海難事故で子どもを探す保護者の話や、教科書無償化闘争について書かれた文章を人権委員と学級の有志で朗読しました。

今年度は、歴史教育を中心にホームルーム活動が行われ、1年生の時よりも踏み込んだ内容を学習しましたが、皆で真剣に話し合い、人権問題に対する理解はぐっと深まったように思えます。

たくさん学んだ一年でした。このような学習を真面目に協力して行えるのが21Rなのだと思います。

21R 人権委員